

2024年12月4日

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

「PRアワードグランプリ 2024」が決定

＜グランプリ＞ 株式会社マイナビ

「アルバイトの立ちっぱなし問題解決を目指す『座ってイイッス PROJECT』」

＜ゴールド＞ 株式会社島田電機製作所

「無名だった BtoB のニッチな下請け町工場を、

毎月 2000 人以上が殺到する人気企業に変えた“ファンづくり活動”」

(公社)日本パブリックリレーションズ協会(理事長:山口恭正、所在地:東京都港区)はこのほど、「PRアワードグランプリ 2024」審査会を開催し、今年度の「グランプリ」に「アルバイトの立ちっぱなし問題解決を目指す『座ってイイッス PROJECT』」(エントリー会社:株式会社マイナビ、事業主体:株式会社マイナビ)、「ゴールド」に「無名だった BtoB のニッチな下請け町工場を、毎月 2000 人以上が殺到する人気企業に変えた“ファンづくり活動”」(エントリー会社:株式会社島田電機製作所、事業主体:株式会社島田電機製作所)を選出しました。

ほかに、「シルバー」7件、「ブロンズ」6件、さらに審査委員特別賞として1件を選出しています。

「PRアワードグランプリ」事業は、PRすなわちパブリックリレーションズの優れた事例を選考・顕彰することにより、PRの普及と発展に寄与することを目的に毎年実施しています。今年度は80件のエントリーがありました。

受賞した全15件と審査委員特別賞1件の詳細については次頁をご覧ください。

なお、12月11日(水)17時から時事通信ホールにて「PRアワードグランプリ 2024 表彰式/受賞者プレゼンテーション」を開催予定です。

<https://prsj.or.jp/pr-award/>

<「PRアワードグランプリ 2024」受賞エントリー> (全 16 件)

<グランプリ> 受賞エントリー (1 件)

- アルバイトの立ちっぱなし問題解決を目指す「座ってイイッス PROJECT」
エントリー会社：株式会社マイナビ
事業主体：株式会社マイナビ

<ゴールド> 受賞エントリー (1 件、エントリー登録順)

- 無名だった BtoB のニッチな下請け町工場を、
毎月 2000 人以上が殺到する人気企業に変えた“ファンづくり活動”
エントリー会社：株式会社島田電機製作所
事業主体：株式会社島田電機製作所

<シルバー> 受賞エントリー (7 件、エントリー登録順)

- 情熱があれば、だれでも音楽家。「だれでも第九」プロジェクト
エントリー会社：株式会社電通東日本
事業主体：ヤマハ株式会社
- 海外評判で透明醤油に再注目をつくる「透明醤油 市場浸透プロジェクト」
エントリー会社：株式会社はずむ
事業主体：株式会社フンドーダイ
- メルカリで出会えるもので作った「ウチの実家」
エントリー会社：株式会社プラチナム／株式会社 EPOCH／
株式会社 thaw／株式会社メディアコンシェルジュ
事業主体：株式会社メルカリ
- 睡眠計量 e-SPORTS CUP「SLEEP FIGHTER」
エントリー会社：株式会社電通
事業主体：エスエス製薬株式会社
- 「池袋ハロウィンコスプレフェス」
10 年にわたる地域とのコミュニケーションが築いた“聖地”
エントリー会社：池袋ハロウィンコスプレフェス実行委員会
(豊島区／ドワンゴ／サンシャインシティ／アニメイト／ハコスタ)
事業主体：株式会社ドワンゴ
- 選択的夫婦別姓を企業や生活者と考える「Think Name Project」
エントリー会社：株式会社電通デジタル／株式会社プラチナム
事業主体：一般社団法人あすには

- 世界そして未来へ。「ドン・キホーテ」の根強いネガティブイメージを変革する
5年間のブランディング活動
エントリー会社：株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス/株式会社オズマピーアール
事業主体：株式会社ドン・キホーテ

<ブロンズ> 受賞エントリー (6件、エントリー登録順)

- ～予期せぬ災害に、予期せぬ訓練を～ 「とつぜんはじまる避難訓練」 in 那覇市
エントリー会社：LINE ヤフーコミュニケーションズ株式会社
事業主体：LINE ヤフーコミュニケーションズ株式会社/沖縄県那覇市
- 徹底したローカル施策で、世界ブランドの象徴が関西で生んだ“奇跡の共感”
「おかえり!カーネル」人形納め
エントリー会社：株式会社オズマピーアール
事業主体：日本 KFC ホールディングス株式会社
- 特茶の反論 -ひろゆきさん、こちらにはエビデンス※があるんです。-
エントリー会社：サントリー食品インターナショナル株式会社/株式会社SIGNING
事業主体：サントリー食品インターナショナル株式会社
- バイトル「高校生アルバイト応援プロジェクト」
～闇バイトから身を守る、高校生への啓発授業～
エントリー会社：株式会社マテリアル
事業主体：ディップ株式会社
- コレクティブインパクトのアプローチで挑む!
どの国よりも先に HIV/AIDS 流行終結を目指す「HIV/AIDS GAP6」
エントリー会社：株式会社オズマピーアール
事業主体：ギリアド・サイエンシズ株式会社
- 買い物にもう一つの基準“環境貢献”を。新たな単位 Earth hacks 「デカボスコア」
エントリー会社：株式会社博報堂/株式会社SIGNING/株式会社博報堂ケトル
事業主体：Earth hacks 株式会社

<審査委員特別賞> 受賞エントリー (1件、エントリー登録順)

- “鬱憤”からPRアイデアを考える新アプローチ「鬱憤構文®」
エントリー会社：株式会社電通PRコンサルティング
事業主体：株式会社電通PRコンサルティング

<本田 哲也・審査委員長の講評コメント>

本年度も、昨年に引き続き、たくさんの質の高いエントリーをいただきました。日本社会におけるパブリックリレーションズへの理解と関心が進み、多様な取り組みが生まれていることの証だと思えます。

審査委員長として、今年は、昨年に引き続き以下の3つの審査にあたっての視座を示させていただきます。

1、「パーパス（社会的存在意義）」はあるか？：社会に向き合った、社会的な意義のある活動になっているか。

2、「自分（たち）らしさ」が感じられるか？：当該企業/ブランドがその活動をするオーセンティシティ（正当性・真正性）があるか。

3、「巻き込む力」は発揮されたか？：多様なステークホルダーを巻き込み、共創が起こるような設計がなされ、活動の持続性につながっているか。

昨年に続き、実に「粒ぞろい」だった印象ですが、今年は一次審査の時点から上位入賞エントリーには高い評価が集中していました。見事グランプリに輝いた、株式会社マイナビの「アルバイトの立ちっぱなし問題解決を目指す『座ってイイッス PROJECT』」は、事業主体の社会的な立ち位置をブラさずに社会課題解決に向き合った、まさにパブリックリレーションズの「お手本」のような取り組みでした。そして、今年唯一のゴールド受賞となった、株式会社島田電機製作所の「無名だった BtoB のニッチな下請け町工場を、毎月 2000 人以上が殺到する人気企業に変えた“ファンづくり活動”」は、日本に数多く存在する、「黒子」のような BtoB 企業が挑戦した「全員広報」の取り組みです。この2エントリーへの高い評価は、審査委員全員の一致を見たものでした。

今年は、パブリックリレーションズとはどうあるべきか？と問いただされるような出来事も起こりました。だからこそ、本当に価値のあるパブリックリレーションズの姿を世に提示する本アワードの責任を踏まえ、審査委員一同は気を引き締めて審査に臨みました。あらためて受賞された企業・組織団体の皆様に敬意を表し、これからも日本のすべてのパブリックリレーションズの取り組みが素晴らしい成果を生むことを願っています。

<審査委員> (敬称略、50音順)

■審査委員長 (敬称略)

本田 哲也 株式会社本田事務所 代表取締役／PRストラテジスト

■審査委員(9名) (敬称略／氏名50音順)

伊東 由理 LINE ヤフー株式会社
執行役員 コーポレートコミュニケーション統括本部長

北見 幸一 東京都市大学 都市生活学部／大学院環境情報学研究科 准教授

小林 正史 株式会社プラップジャパン
戦略企画部 部長／Group Planning Director

田上 智子 株式会社シナジア 代表取締役

竹下 隆一郎 元 PIVOT 株式会社 チーフグローバルエディター

河 昶珍 國學院大學 観光まちづくり学部 准教授

橋本 良輔 株式会社電通 PR コンサルティング 統合コミュニケーション局 次長

牧 志穂 株式会社博報堂 PR 局／局長補佐、チーフ PR ディレクター

横田 和明 株式会社日本パブリックリレーションズ研究所 取締役副社長

添付資料 1

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRSJ）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147